

定例研究会要旨

日時：平成 22 (2010) 年 10 月 13 日 18:20～20:20

会場：東京外国語大学 語学研究所

題目：「種を表す表現における数と定性の標示の種類」

発表者：野元 裕樹 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院・言語文化部門講師／統語論・意味論, マレー語学)

ある種それ自体を指示する名詞句の数および定性の標示の方法は、言語ごとに異なる。例えば、英語では、無冠詞の名詞複数形(1a)、あるいは単数名詞に定冠詞が付く形式(1b)が用いられる。一方、イタリア語では、(2)のように、名詞の数に関わらず定冠詞が義務的である。さらに、ドイツ語では、(3b)のように、単数名詞については、英語やイタリア語のように定冠詞が義務的であるものの、複数名詞については、(3a)のように、定冠詞が随意的になる。

- (1) a. (*The) Lions are predatory cats.
b. *(The) lion is a predatory cat.
- (2) イタリア語 (Dayal 2004:438)
a. *(I) cani abbaiano.
the dog.PL bark
「犬は吠える。」
b. *(II) cane abbaia.
the dog barks
「犬は吠える。」
- (3) ドイツ語 (Dayal 2004:441-442)
a. (Die) Pandabären sind vom Aussterben bedroht.
the panda.PL are of extinction threatened
「パンダは絶滅の危機に瀕している。」
b. *(Der) Pandabär ist vom Aussterben bedroht.
the panda is of extinction threatened
「パンダは絶滅の危機に瀕している。」

Dayal (2004)は、種の解釈の派生に関わる2つの演算子、すなわち \cap と ι が当該の言語でどのように語彙化されているかと、意味演算子の適用に関わる一般原則から、このような言語間の変異を予測するモデルを提示した。Dayalの理論は、上記の言語に加え、ヒンデ

イー語やロシア語など、多くの言語に関して正しい予測をする。しかし、ブラジル・ポルトガル語や口語シンガポール英語については誤った予測をする。具体的には、これらの言語では、定冠詞の生起が単数の種名詞句でも複数の種名詞句でも随意的である。そのような言語は、Dayal の理論によれば存在しないはずである。

本稿は、Dayal (2004)および Chierchia (1998)の種を表す名詞句についての理論に修正を加え、種を表す名詞句の数と定性の標示について、より多くの言語について正しい予測ができるようにする。以下の2点の修正が必要である。まず、自然言語の基本的数範疇には、単数と複数に加え、一般数 (general) を認める必要がある。一般数は、単一体と複数体の両方をその外延に持ち、両者の区別をしない。3つの基本的数範疇を区別していると考えられるのは、日本語、マレー語、広東語などの類別詞言語である。まず、無標の名詞句は一般数の特性を外延とする。日本語の「-たち」が付加した名詞句やマレー語の重複形名詞句は、単一の個体を指示することがないので、複数にあたる。最後に、単数であるが、名詞句 (DP) のうち [類別詞+NP] の部分が単一体を外延に持つと考えられる。すなわち、類別詞は単数の数標示とみなされる。この主張は、広東語や苗語など、[類別詞+NP] が数詞なしに生起できる言語では、その指示対象は必ず単一の個体であることを根拠とする。2点目の修正点は、 \cap 演算子の定義域についてである。Chierchia (1998)は \cap は単一体には未定義であるとしている。しかし、単一体を決して含まないようなものは種と呼ぶに値しないので、 \cap は複数体にも未定義であるはずである。よって、 \cap は一般数の特性にのみ定義される。

以上の修正により、Dayal の理論が説明できなかったブラジル・ポルトガル語や口語シンガポール英語の言語事実が説明可能になる。これらの言語では、名詞句の無標の形式は一般数であり、単一体も複数体も指示し得る (Schmitt & Munn 2002; Gil 2002; Kim et al. 2009)。類別詞は存在しないので、単数と一般数の範疇が融合していることになる。一般数には、[+Sg, +Pl]と[-Sg, -Pl]の2通りの素性構成があり得、前者の場合には単数と複数両方の形態標示が起こり、後者の場合には数に関する形態標示は起こらない。一般数を想定しない場合、前者が複数形、後者が単数形というように分析される。しかし、本稿の提案する修正案では、どちらの場合も一般数である。よって \cap を適用することができ、その語彙化のされ方がドイツ語と同じタイプであるとすれば、定冠詞がどちらの場合にも随意的であることが、正しく予測される。